

紫式部(九七八〜一〇一四) 平安中期の天才女流作家。藤原首長の娘、彰子のもとに女房(宮中の女官)として仕えました。

宇治十帖の古蹟めぐり



平安時代の昔 石山寺で
紫式部の書いた
「源氏物語」の終わりの
十章が主として宇治を舞台として
書かれていることから
始まったの……





まず第一が「東屋」
京阪宇治駅の
すぐ東にあるんだ



それじゃ
主なコースを
歩いてみようか



その次が
「椎本」と
いわれる
彼方神社



この石仏は
なに？

一般に
東屋観音と
いわれている
そうよ



府道に沿って北上するとそこには、
「手習」



いまなら
エンピツの形ね



この石碑は
まるで
筆のような
形をして
いるで
しょう



宇治神社の
西北の隅が「早蕨」
.....



春早く採れる
わらびの
ことでは
ありま
せん。

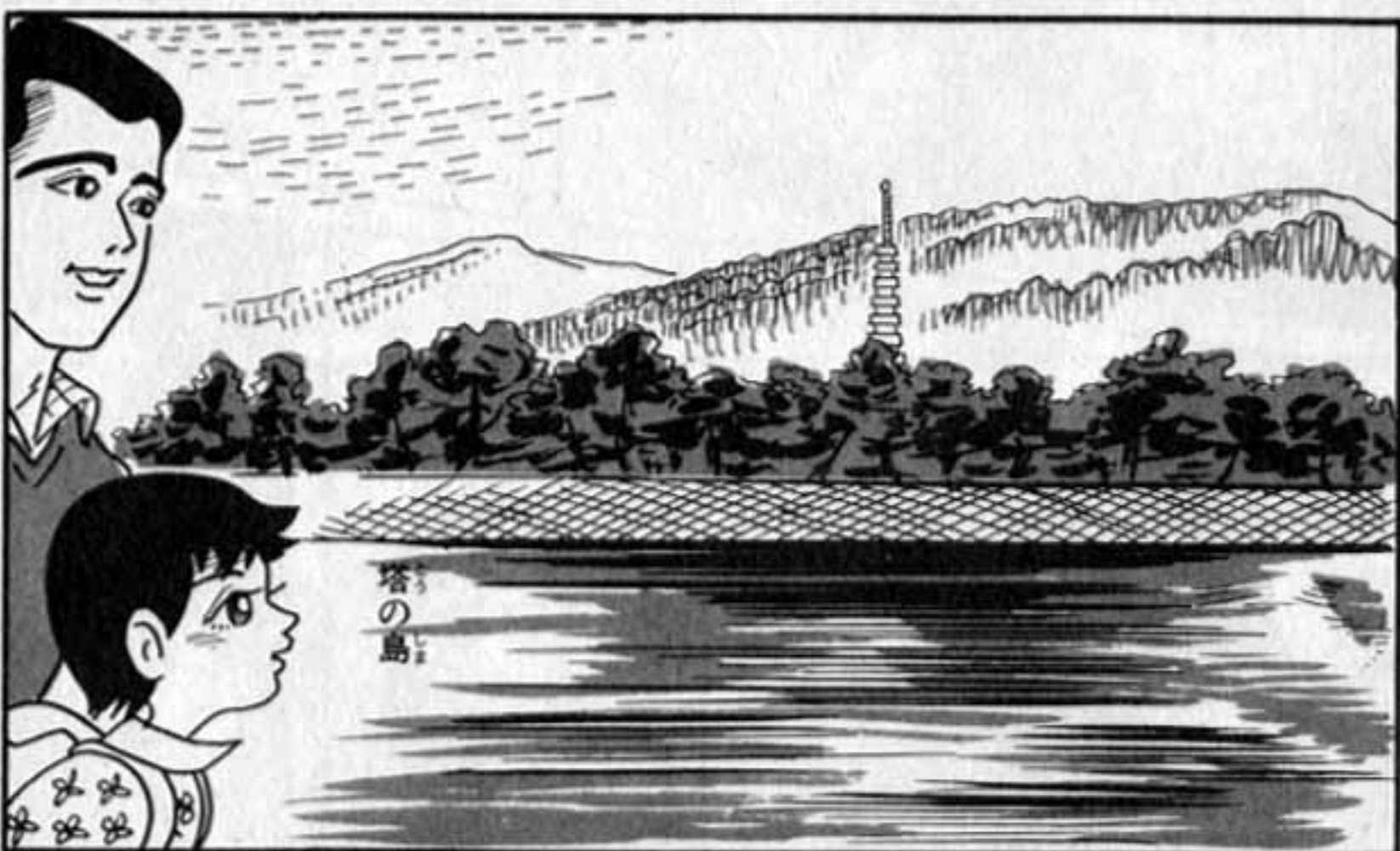


これまでが
川の東のコースだよ

最初は「東屋」
「椎本」「手習」

そして「浮舟」
「蜻蛉」「総角」
「早蕨」

これから
塔の島をわたって
西の方を
歩きましょう



塔の島



これから宇治川に沿って
宇治橋まで
下ってみよう

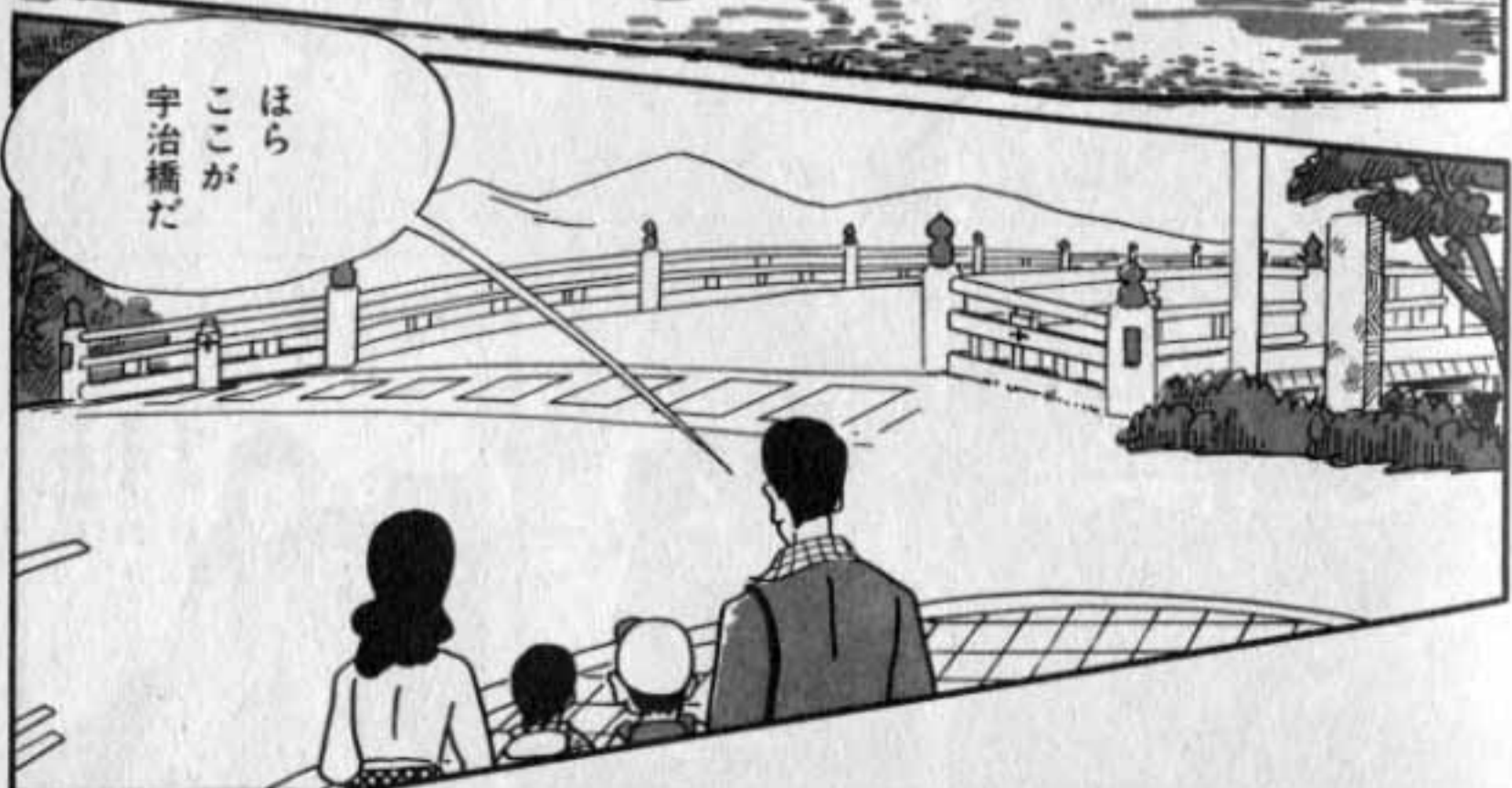


ここが宿木のある所よ

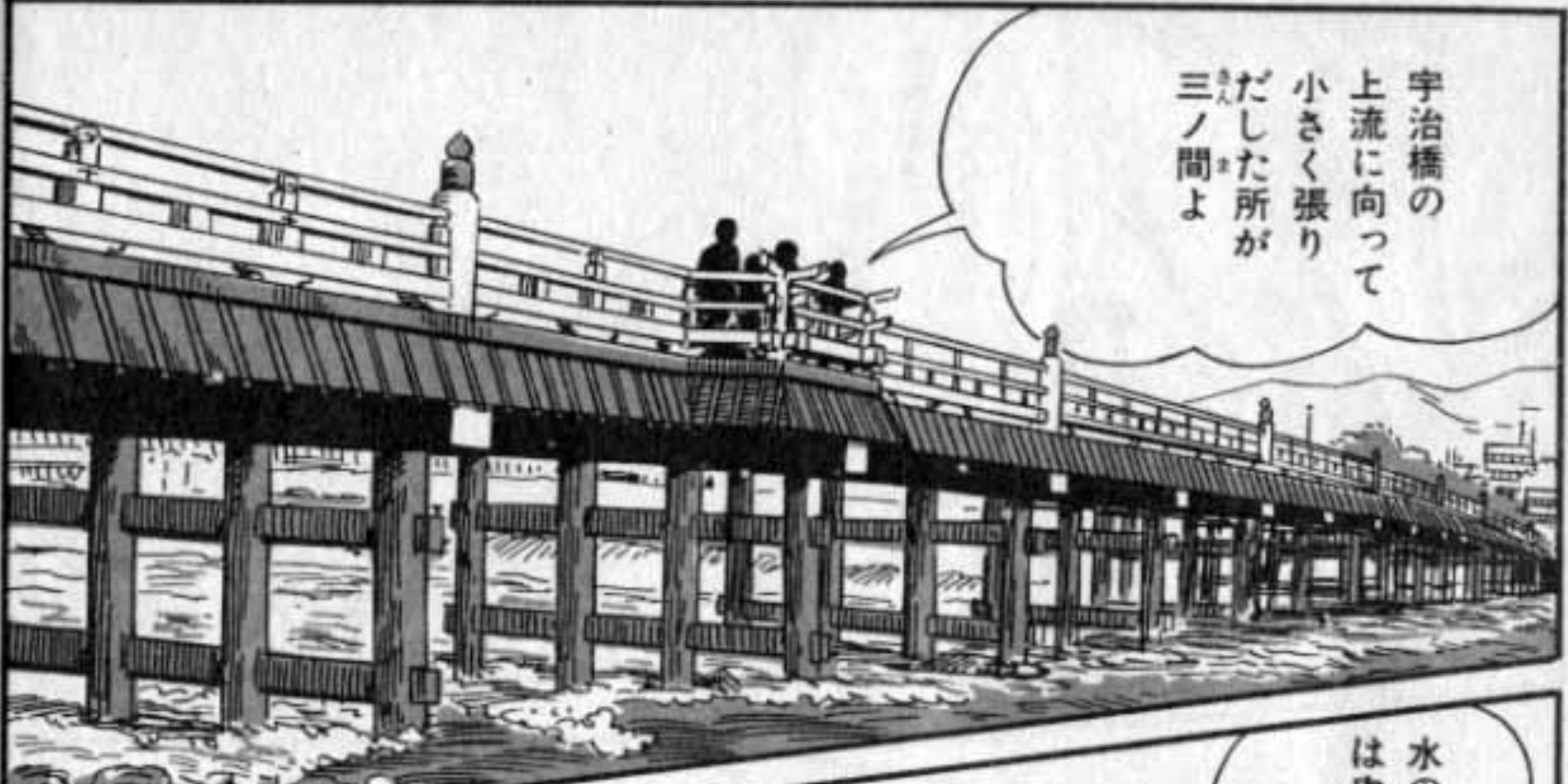
ふうん



宇治橋。
現在の橋は
昭和十一年に
架けられた
ものです。



ほら
ここが
宇治橋だ



宇治橋の上流に向って
小さく張り
だした所が
三ノ間よ



水の流れが
はやいね



この宇治橋の
三ノ間は
昔「橋姫」を
祀ったともいわ
れているん
だよ

橋姫
って？



橋姫に
まつわる話は
いくつもあり……



宇治川に
身を投げた
女性が……

私は
宇治川の
神に
なった



今後 宇治橋を
渡ってお嫁に
行く女性は
決して
長く
添とげ
させない



宇治の伝説は
いろいろ
あるのね



宇治橋にまつわる話は
ほかにもあり



宇治橋の下には



姫大明神ひめだいめいじんが住んでいたそうな



毎夜 離宮りきゆうの
男神が橋を渡って
いったそうなの



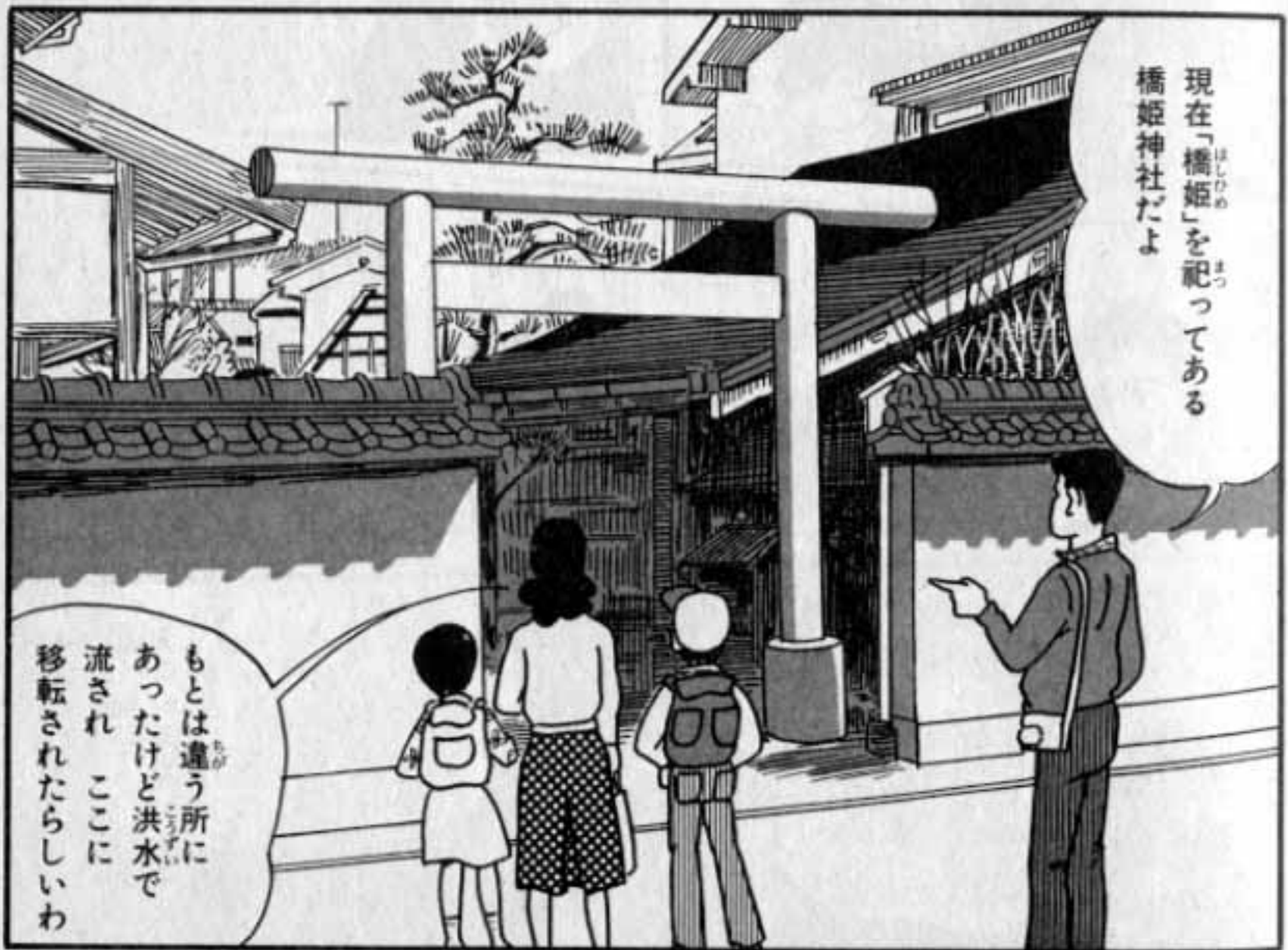
しかし
この
男神が
夜明けとともに
帰ってしまうと



宇治川の
姫大明神が
さみしがり



波が
高鳴る
という……



現在「橋姫はしひめ」を祀まつっている
橋姫神社だよ

もとは違う所に
あったけど洪水で
流され ここに
移転されたらしいわ

宇治市宇治山田にある。宇治神社の拝殿を中心とする場所であったとの伝承があります。

橋姫は宇治橋の守護神ともいわれています。



伝説ではね
橋姫は女の神さまだから
幸せになる女の人には
ヤキモチを焼くって
話になったのかなあ

昔 お嫁入りの時は
ここを避けて
通ったそうよ



「源氏物語」の他に「古今集」や能にも橋姫はでてくるのよ



美しくなり
ますように



そして
姫大明神
のように
すてきな
ボーイ
フレンド
ができて
すように



とんでも
ありま
せん
身投げ
なんか
しません
ように……



昔から
いろんな
いい伝えが
残って
いる
が



橋姫は
愛し姫と
発音が似て
いるところ
から
紫式部は
「源氏物語」で
使った
ようだよ



「橋姫の
心くみて
高瀬さす
棹のしずくに
袖ぞぬれぬる」
これが「源氏物語」に
でてきた
歌よ





「源氏物語」の宇治十帖は
「橋姫」に始まり
この「夢浮橋」で終わる

ここがその
古蹟がある
宇治橋西詰だよ

また
宇治橋に
戻って
きたんだね

この左の
信号の下に
新しく石碑が
できているのよ